

## 2026-2027 年度 RI 会長メッセージ

### CREATE LASTING IMPACT

持続可能なインパクトを生み出そう

#### ガバナー方針

「元気で なかよく 楽しく そして高潔に」

#### クラブ方針

「共にロータリーを語りあい 共に新たな価値を生み出そう」



#### 名古屋空港ロータリークラブ

事務局/ 名古屋市中村区名駅 3-11-13

レジデンス鈴木 1101

【TEL】 052-446-6811 【FAX】 052-446-6812

E-Mail: rongoapt@mta.biglobe.ne.jp

会長/ 入谷 宏典

幹事/ 伊東 由之

公共イメージ向上委員長/ 大河 裕之

例会日/毎週月曜日 12:30~13:30

例会場/名古屋マリオットアソシアホテル

## 2245 回例会

2026年8月17日(月) 第 5 回

- 司 会 SAA 中島 俊朗 君
- 点 鐘 会 長 入谷 宏典 君
- 斉 唱 「我等の生業」「われは海の子」
- 例会行事 ガバナー補佐訪問 「ガバナー補佐卓話」
- 2760 地区 2026-27 年度ガバナー補佐 岡田 雅隆 君
- 2760 地区 2026-27 年度地区副幹事 松宮 弘明 君
- 2760 地区 2026-27 年度分区幹事 谷定 貴之 君
- ゲ ス ト (株)Ash Pride 代表取締役 青山 雅司 様

#### 会 長 挨 拶

名古屋空港ロータリークラブ 会長 入谷 宏典 君



皆さん、こんにちは

本日はガバナー補佐訪問ということで大勢の方に参加いただきありがとうございます。

先ずは第2760地区 26-27年度岡田 雅隆 ガバナー補佐同じく26-27年度松宮 弘明 地区副幹事

そして26-27年度谷定 貴之 分区幹事

ようこそ当クラブにお越しいただきありがとうございます。

また、ゲストとして(株)Ash Pride 代表取締役 青山 雅司 様 ようこそ当クラブの例会へ、楽しんでってください。

ところで聞くところによると、岡田ガバナー補佐は犬山 RC より出向されてみえるのですが、亡くなった私の義理の父親も第37代犬山 RC の会長を務めさせていただいて祝福行事のなかで誕生月が5月と一緒に、岡田ガバナー補佐がまだ新会員の頃に並んで祝福されたと聞いております。

また、松宮地区副幹事とは10年以上前から海外実習生の仕事のお手伝いで親しくさせていただいています。

さて皆さんはお盆休みをどのように過ごされましたでしょうか？

先週は当クラブが支援している春日丘高校のインターアクトクラブのお手伝いで片山青少年奉仕委員会委員長と伊東 幹事の3名でお邪魔してきました。

内容は当クラブが11月8日に行います地区補助金事業の段ボール迷路を使ったレクリエーションで春日井市勤労福祉会館にて春日井市福祉協議会の支援のもと予行演習を行ってきました。

入園児と共に親子が迷路を走破していくのですがとても盛況でした。

11月8日は春日井市の篠原小学校で持出し例会にもなっていますので皆さんの参加をお願いします。

最後に、立秋も過ぎましたがまだまだ暑い日が続きます。体調面にも気を付けていただくことをお願いし、挨拶とさせていただきます。

今日もよろしくお願いします。

#### 委 員 会 報 告

##### ●出席報告(稲熊 正徳 君)

##### 本日の例会

| 会員数 | 47    |    | 出席率 | 91.30 | % |
|-----|-------|----|-----|-------|---|
| 出席者 | 出席義務者 | 33 | 欠席者 | 出席義務者 | 4 |
|     | 出席免除者 | 9  |     | 出席免除者 | 1 |
|     | 出席合計  | 42 |     | 欠席合計  | 5 |

## ● ニコボックス報告（稲熊 正徳 君）

ガバナー補佐訪問で参りました。よろしくお願いします。

ガバナー補佐 岡田 雅隆 君  
地区副幹事 松宮 弘明 君  
分区幹事 谷定 貴之 君

第2760地区26-27年度ガバナー補佐 岡田 雅隆 君、  
同じく地区副幹事 松宮 弘明 君、同じく分区幹事 谷定  
貴之 君、本日はよろしくお願いします。

（株）Ash Pride 代表取締役 青山 雅司 様、ようこそ当クラ  
ブ例会へ。 入谷 宏典 君

ガバナー補佐、地区副幹事、分区幹事、本日よりしてく願  
いします。 伊東 由之 君

ガバナー補佐、地区副幹事、分区幹事の皆様、お忙しい中、  
ありがとうございます。 伊藤 康司 君

岡田ガバナー補佐、松宮地区副幹事、谷定分区幹事、本日  
ようこそ当クラブへ！青山様ようこそ！ 稲熊 正徳 君

岡田ガバナー補佐、松宮地区副幹事、谷定分区幹事をお迎  
えして。 武田 英昭 君

ガバナー補佐をお迎えして。 中島 俊朗 君

ゲストの青山様ようこそ。 真城 壮司 君

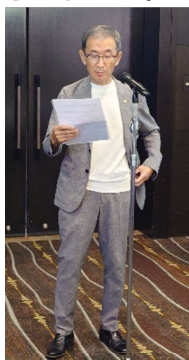
岡田ガバナー補佐、松宮地区副幹事、谷定分区幹事、訪問  
ありがとうございます。 山北 秀和 君

## 今日も元気で！

|          |          |         |
|----------|----------|---------|
| 浅野 学 君   | 阿萬 裕子 君  | 池田 友也 君 |
| 市川 孝 君   | 稲吉 将秀 君  | 井上 辰男 君 |
| 内海 辰巳 君  | 大河 裕之 君  | 大野 和宏 君 |
| 片山 映理子 君 | 金井 和治 君  | 川口 直也 君 |
| 北園 守生 君  | 國田 武二郎 君 | 栗田 和典 君 |
| 近藤 和彦 君  | 佐藤 進一 君  | 澤田 光史 君 |
| 菅沼 智大 君  | 杉本 敦永 君  | 高山 光雄 君 |
| 田邊 雅彦 君  | 津留 健太 君  | 戸谷 仁美 君 |
| 中井 詳子 君  | 中川 敬介 君  | 名川 節子 君 |
| 野口 洋高 君  | 秦名 哲平 君  | 原田 好展 君 |
| 前田 幹太 君  | 松井 ゆか 君  | 三好 潤 君  |
| 安川 正勝 君  |          |         |

|          |      |           |
|----------|------|-----------|
| 本日の協力    | 42 名 | 75,000 円  |
| 本年度の協力累計 |      | 398,000 円 |

ご協力ありがとうございました。



## ～ガバナー補佐卓話～



2760地区 2026-27年度ガバナー補佐 岡田 雅隆 君

皆さま、本日はお時間をいただきありがとうございます。  
2026-27年度、RI第2760地区、東尾張分区ガバナー  
補佐訪問としてお話しします、犬山ロータリークラブの岡  
田雅隆です。本日は、RI会長メッセージと第2760地区  
方針を、各クラブの一年の行動につながる形で共有いたし  
ます。13枚のスライドがありますが、資料を順に読む時  
間ではなく、「私たちは、今年何を残すのか」という問い  
を、皆さまと一緒に確認する時間にしたいと思います。ど  
うぞよろしくお願いいたします。

## RI会長メッセージ

今年度のテーマは、オンラインカ・H・ババロラRI会長に  
よる「持続可能なインパクトを生み出そう」、CREATE  
LASTING IMPACTです。最新のメッセージでは、私た  
ちロータリー会員は、文化、言語、地域社会を超えて手を  
取りあい、変化をもたらすだけでなく、その変化が持続す  
る責任を分かち合う、と語られています。ここで大切な  
のは、単に良い事業を行うことではありません。地域社会と  
連携し、人びとのスキルとリーダーシップを高め、その進  
展を確かめること。そして、プロジェクトが終わった後  
にも、地域社会と自分自身の中に良い変化が残ることです。  
私たちは熱心であるほど、行事が無事に終わった時点で安  
心しがちです。しかし本当に問われるのは、そのあとで  
す。誰の行動が変わったのか。どんな関係が残ったのか。  
次年度にも引き継げる仕組みになったのか。つまりこのテ  
ーマは、事業数を増やす合図ではなく、成果の残り方を問  
う合図です。

## 2026-27年度RI会長方針

この言葉を少し分けて考えます。「手を取りあおう」、  
UNITEは手段です。一人の善意だけでは届かない場所  
に、クラブ、地域、世界がつながることで近づいていく。  
「よいこと」、GOODは目標です。活動を増やすことで  
はなく、地域にとって本当に価値ある成果へ向かうことで  
す。「生み出そう」、CREATEには、待つのではなく、  
私たち自身が変化をつくる姿勢があります。そして  
LASTING IMPACTは、年度を越えて、次の世代に残る  
価値です。活動とインパクトは同じではありません。活動

は実施した時点で終わることがあります。しかしインパクトは、人の考え方、クラブの雰囲気、地域の関係性の中に残ります。ババロア会長は、自分自身の中に持続可能な変化を生み出しているだろうか、と問いかけています。これは静かですが厳しい問いです。奉仕に慣れすぎていないか。会員増強を人数だけの話にしていないか。親睦を内輪の安心だけにしていないか。RIの最新メッセージでは、2030年までの会員基盤拡大にも触れていますが、同時に「大切なのは人」と明確に語られています。入会候補者は、数字の前に、私たちの姿、例会の空気、奉仕に向かう表情を見えています。だからこそ、この一年は「何をしたか」だけでなく、「何が残ったか」を確認する一年にしたいと思います。

## 2026-27 年度第 2760 地区方針

続いて、第 2760 國府谷俊盛ガバナーの地区方針です。「元気で、なかよく、楽しく、そして高潔に」。親しみやすい言葉ですが、決して軽い言葉ではありません。「元気で」とは、声が大きいことではなく、職業人として自らの仕事をしっかり全うすることです。品質、約束、説明責任、誠実さを守ることが、地域の元気を支えます。「なかよく」とは、馴れ合いではなく、互いの違いを認め、クラブの内外に温かな関係をつくることです。「楽しく」とは、義務感だけでなく、参加する喜びを奉仕の燃料にすることです。そして「高潔に」。ここがロータリーらしさの核心です。四つのテストを土台に、行動に品格を添える。新たな視点からの挑戦とは、伝統を壊すことではなく、大切な核を守りながら、今の地域、今の会員、今の子どもたちに届く形へ整えることです。この方針を、会議資料の中だけに置いておくのではなく、例会の空気、新会員の迎え方、奉仕活動の設計、日々の職業生活の中に置きたいと思えます。クラブを叱る言葉ではなく、クラブを整える言葉として受け止めたいと思います。

### 日本の子どもたちのために

ここからは「日本の子どもたちのために」という柱に入ります。スライドには、子どもの権利条約の四つの原則が示されています。差別の禁止、子どもの最善の利益、生きる、育つ権利、子どもの意見の尊重です。大人がよかれと思うことが、必ずしも子どもの最善とは限りません。支援する側の満足が、支援される側の安心と一致するとも限りません。だからこそ、子どもの声、尊厳、権利を中心に置く必要があります。子どもは未来の担い手である前に、今を生きている一人の人間です。その尊厳を守ることが、ロータリーの子どもの支援の出発点になります。そしてこの考え方は、四つのテストにも響き合います。真実か、公平か、好意と友情を深めるか、みんなのためになるか。子ども支援を考えると、この四つはそのまま私たちの物差しになります。

### 小中学生自殺者の推移

このスライドは、小中高生の自殺者数の推移です。令和6年の小中高生の自殺者数は合計529人。資料では過去最

多と示されています。内訳は、小学生15人、中学生163人、高校生351人です。この数字のあとに、少し間を置きたいと思います。529という数字の一つひとつに、名前があり、家族があり、学校があり、地域がありました。ロータリーだけでこの問題を解決できるとは言えません。しかし、できることはあります。家庭と学校以外にも安心して関われる場所を増やすこと。相談できる大人を一人でも増やすこと。学校、行政、専門機関、NPOをつなぐこと。子どもの変化に気づく目を、地域の大人が持つことです。原因を決めつけるより先に、子どもたちが安心して声を出せる地域であるかを問うこと。その一つひとつが、派手ではなくても、命に近い奉仕です。

### G7 各国の自殺死亡率

次のスライドは、G7 各国の自殺死亡率です。人口10万人あたりで見ると、日本は16.5と示され、G7の中でも高い水準にあります。女性では日本が10.8と、他のG7諸国より高い数字です。この比較は、どの国が良い、悪いという順位表ではありません。私たちの社会を映す鏡です。経済的に豊かであることと、人の心が安心して同じではありません。便利な社会であることと、孤立しない社会であることも同じではありません。医療や相談機関につなぐことは重要です。同時に、日常の中で声をかける、変化に気づく、相談先を知っている、偏見を持たない。そうした地域の基礎体力を高めるところに、ロータリーの役割があります。世界を見て、足元の一人に戻る。国際組織であり、地域に根を張る私たちだからこそできる視点です。

### 児童虐待相談対応件数の推移

三つ目のグラフは、児童虐待相談対応件数の推移です。令和6年度の相談対応件数は223,691件と示されています。この数字を見て、単純に誰かを責める話にははいけません。相談件数の増加には、社会が問題を見つけやすくなった面もあります。一方で、相談を必要とする子どもや家庭がこれだけ存在していることは、重く受け止めなければなりません。背景には、家庭の孤立、貧困、子育ての不安、保護者の疲弊、地域のつながりの弱まりがあります。子どもを守ることは、保護者を支えることでもあります。追い詰められた家庭を孤立させたまま、子どもだけを救うことはできません。ロータリーの強みは、行政、学校、NPO、医療、企業をつなぐ力です。相手を弱者として固定するのではなく、その人がもう一度力を取り戻す関係をつくること。継続できる関係を残すこと。それが持続可能なインパクトです。

### 青少年、職業人の育成と平和構築

続いて、青少年、職業人の育成と平和構築です。このスライドでは、各委員会のさらなる発展、七つの重点分野以外の研究にも対応する新たな留学生補助制度、そして第30回RI日本青少年交換研究会・愛知会議の開催が示されています。予定は2027年6月12日、13日です。ロータリーには、インターアクト、ローターアクト、青少年交

換、RYLA、財団奨学金、米山記念奨学、平和フェローシップなど、若い世代を育てる入口があります。名前は別々でも、根は一つです。若い人が自分の可能性を信じ、違いを理解し、職業を通じて社会に貢献し、平和をつくる人材へ育つことです。便覧では、地区予算の大きな部分が青少年育成など人材育成に向けられていることも示されています。これは費用配分ではなく、未来への意思表示です。平和は遠い会議場だけで生まれるものではありません。例会で語る職業経験、学生を招く一回の機会、海外から来た若者を地域で迎える一つの家庭、その積み重ねが未来への投資になります。成果が見えるまで時間はかかります。しかし10年後、20年後に地域を支える人材が育つなら、それは最も確かなインパクトの一つです。

#### ロータリー・ドネーション・フェスタ（RDF）

次は、ロータリー・ドネーション・フェスタ、RDFです。ここには二つの方向性があります。一つはポリオ根絶です。LAST MILE、最後の一步を完遂し、ワクチン接種だけでなく監視活動、サーベイランスを続けることが重要です。最新のRI会長メッセージでも、ポリオ根絶という世界との約束は今も変わらないと語られています。もう一つは、疲弊する日本の子どもたちへの支援です。寄付というと金額が先に立ちますが、ドネーションの本質は競争ではありません。目的に名乗りを上げることです。便覧には、学校設立のための募金に、年老いた農夫が自分の二ドルを差し出した話が紹介されています。金額の大小ではなく、目的のために自分にできる精一杯を差し出す。その精神が原点です。年次基金150ドル、ポリオプラス基金30ドル、恒久基金20ドル。数字は目安、目的は羅針盤です。同時に、寄付をお願いする側には説明責任があります。何に使われ、どのような価値を生み、どのように未来へつなげるのか。そこを丁寧に共有するとき、寄付は義務ではなく、奉仕になります。

#### クラブ奉仕・危機管理

次に、クラブ奉仕と危機管理です。クラブを愛し、会員同士の親睦を深め、対外的にもオープンで、ホスピタリティの高い雰囲気をつくること。これはすべての活動の土台です。どれほど立派な奉仕活動でも、クラブの中に温かさがないければ会員は続きません。外から来た人が歓迎されると感じなければ、新しい仲間も増えません。開かれた親睦は、会員増強の土台でもあります。一方で、危機管理も欠かせません。法令遵守、COMPLIANCEは、ロータリオンにとって最低基準です。特に青少年に関わる活動では、安全管理、個人情報、ハラスメント、会計、SNS、移動時の事故など、注意すべき点が多くあります。危機管理は、活動を止めるためのブレーキではありません。安心して活動を広げ、参加者とクラブの信頼を守るための土台です。信頼は一日にして生まれませんが、一つの不注意で失われることがあります。だからこそ、高潔さを日々の運営に落とし込みたいと思います。

#### 第2760地区メンバー数

ここで、地区のメンバー数を確認します。第2760地区は84クラブ、4,648名です。東尾張区分は12クラブ、430名で、地区内では6番目の規模です。この数字は、競争の順位表ではありません。地域の仲間の広がりを示す地図です。大きい区分には大きい役割があり、小さい区分には顔の見える機動力があります。大切なのは、数字の大小ではなく、そこにいる一人ひとりが、クラブに居場所と出番を持てるかどうかです。新しい会員、若い会員、異なる職業や背景を持つ会員が、「ここにいてよい」と感じられるかどうか。会員増強もまた、数を追う前に、迎え入れる空気を整えることから始まります。

#### 行事予定

最後に、主な行事予定です。ガバナー公式訪問は、クールビズ対応をお願いいたします。地区大会は2026年11月14日（土）、エスパシオナゴヤキャッスル。IMは2027年3月5日（金）、名鉄小牧ホテル。RDFは2027年5月8日（土）、9日（日）、エディオン久屋広場、エンゼル広場。そしてロータリー国際大会は2027年6月26日（土）から30日（水）まで、スペインのバルセロナで開催され、登録は2026年9月開始予定です。行事は、予定表に載っている日付であると同時に、クラブが互いにつながり、学び、奉仕の力を持ち寄る機会です。本日の話を一言でまとめるなら、持続可能なインパクトは、自分自身の変化から始まる、ということです。元気で、なかよく、楽しく、そして高潔に。子どもたちを守り、若い世代を育て、寄付を通じて世界と地域を支え、温かく開かれたクラブをつくる。最後に各クラブで一つだけ問いをお持ち帰りください。「今年、私たちのクラブは、何を一つ残すのか」。小さな行動でも、続けばクラブの文化になります。クラブの文化になれば、年度を越えて残ります。その問いが行動に変わったとき、次の一年が始まります。ありがとうございました。



地区副幹事  
松宮 弘明 君

ガバナー補佐  
岡田 雅隆 君

区分幹事  
谷定 貴之 君



SANYO Development

三洋開発株式会社

代表 田邊 雅彦

〒456-0002 名古屋市熱田区金山町1丁目13番16号  
電話 (052)682-8111 番 FAX (052)682-8181 番  
E-Mail: m-tanabe@34gr.co.jp